



愛隣幼稚園・・・・・・・・・・・・・・・・

園だより

・・・・・・・・・・・・・・・・ 11.5月号

新緑の季節です！

入園式から2週間、今年はお天気が新年度の子どもたちの歩み出しをバックアップしてくれました。ほぼ毎日のお天気マーク 本当は「おうちにいたい」重い足取りも明るい陽射しが少し軽やかにして、背中を押してくれました。満開だった桜の花びらが風に舞った朝は、園庭に綺麗なピンクの絨毯ができました。その絨毯と桜吹雪と子どもたちのなんと絵になることか。それを見られるのも門で「おはよう」をする役得です。離れ難いさよならのあと、さほど時間をおかずに園庭であそび始める子どもたち。たんぽぽ組は、早速裸足になって水遊びに夢中になっていました。

気付けば桜の花のあとは一気に新緑の季節です。毎日歩く道の街路樹が日々変化していきます。昨日まで何もなかったように見えていた木々の枝に、今日は小さな芽ぶきを見つけます。その中の一本の木に毎朝目をとめれば、その変化の大きさに驚きすら覚えます。気温や、前日の雨が小さな若芽の成長に力を与えたり、ちょっと足止めを加えたり。緑の色も芽の成長と共に柔らかい黄緑からしだいしだいに濃い緑色へと色のトーンを変えていきます。大きな公園などに出掛けた時には重なり合う木々の芽ぶきに数え切れないほどの緑の種類があることに気付かされ、あまりの美しさに息をのんでしまいます。神様が創られた色はこんなにたくさんあるのです。もし、「緑」がたった一種類だったら・・・この美しい風景にはなりません。たくさんの「緑」が言葉にならない風景を織りなしていきます。これらの緑の重なり合いもまた日々刻々と変化していきます。枝枝の隙間に点々と見えていた緑の小さなドットはあつという間にその数を増し、重なり合いその面積を広げていきます。昨日まで目にする事ができた枝枝はもうすでに覆い隠されてしまいました。「あっ、この向こうには神社の社が見えていたはず・・・」昨日と今日の風景さえ変えていってしまいます。小さな淡い緑の息吹は力強い命の呼吸を感じる濃い緑へと変わっていくのです。

春は、命の息吹を目の当たりにする事ができる最高の季節です。このことを子どもと歩く私たちがまず実感したいものです。片付けなければならぬ仕事は山のように。早くしないとまた一つ、放っておけば家事は増えるばかり、いっこうに減りません。今日の事、これからの事に追われる私たちですが、ちょっと手を休めて深呼吸しましょう。歩く先1mあたりの地面しか見ていなかったりはしていませんか。深呼吸をしたら目をあげて、遠くに視線を移しましょう。子どもに小言をいうおしゃべりな口にもしばしのおやすみを。静かになったところで耳も澄ましてみましょう。気付かずに通り過ぎてしまうことになりそうだった沢山の美しいものが見えてきませんか。聞こえてきませんか。静かに心穏やかにすると目に映るもの、聞こえてくるものは視覚・聴覚を通じて心の中にその映像を鮮やかに映し出し、心地よい音楽を奏で始めます。見ていても見えなかったもの、聞こえていたのに聴いていなかったものに気付かされるのです。

「沈黙」に耳を傾けましょう。声なきものに心をとめましょう。子どもはうるさいもの。泣いたり笑ったり怒ったり、静かなのは寝ている時か病気の時。そんなふうを感じるのが子どもとの生活です。でも静かによく見ていると、くると背を向けたその後ろ姿が雄弁に語っている事があります。じっと見つめる瞳の中から子どもの思いが伝わってくる事があります。門での「おはよう」の時に、子どもたちはたとえ「おはよう」と声にしなくても、たくさんの思いを私に届けてくれるのです。そらした視線の先に、うつ向いた姿に、お家の人と交わす表情の中に、子どもたちの今日が映し出されています。静かに深呼吸して心穏やかに春の息吹に目を注ぐように、子どもたちが見せる様々な表情にも目を注ぎ、私たちは心の中にその思いを映し出し受け止めたいと思います。